

第1回 山手留守家庭児童育成室 運営業務委託説明会 要旨

令和元年9月10日(火)

山手小学校多目的室

【出席者】 木戸 地域教育部部長、落 地域教育部次長
林 放課後子ども育成課課長、岡本 地域教育部参事、藤井 同主
幹、山下 同主査

【吹田市より配付資料の説明】

(保護者)

主任指導員を1名置いて責任を明確化するというのですが、担任の先生は実務経験2年とあって、主任指導員にも実務経験を求めるのかということと、週3、4回巡回される方は同じ方なのか、数名なのか、毎回違う方なのか、それを教えてください。

(吹田市)

主任指導員の基準は、実務経験の要件はありませんが、これまでの事業者は、どこも主任は信頼できる、実質的に経験者でなければ窓口役として責任を取ることができませんので、そういった方を配置しています。明記はしていませんが、必然的に事業者で最も信頼できるような方になっています。

巡回については、その育成室の担当者と副担当者を決めますので、基本的には1名で、違った視点で確認するため、もう1人、副担当者も行きます。育成課には、スーパーバイザーという保育園の延長経験者の職員も配置しておりますので、スーパーバイザーには要配慮児童の保育について重点的にチェックしています。ですので、概ね3名で1育成室を巡回している状態です。

(保護者)

主任指導員についても実務経験2年というのを明記してほしいんですが。

(吹田市)

前向きに検討させていただきます。

(保護者)

選定が決まった時点で20名ほどの指導員確保の見込みと言っていたと思うんですが、仕様書にも書いてないみたいですが、どういった根拠で20名の見込みなんですか。

また、山五の件があったので、選定委員会がすごく大事で受ける事業者によって明暗が分かれると思ってしまっていて、父母から出す選定員の負担がとても大きいと思います。十分な情報提供や丁寧な説明、相談したものを持ち込めるとかいろんな配慮が必要だと思いま

す。

また、選定委員会の専門的な部分を別にするということですが、具体的な経営状況をどう別にするのかを教えてください。

(吹田市)

20名程度の指導員確保というのは、東、山手、高野台の来年度の児童数でそれだけの教室数が必要で、それによって何人の指導員を配置するのかというのが、20名だということ。

また、保護者の選定委員の負担というのも以前からございまして、前回の選定から募集要領を改正しております。提出書類の様式については、以前は事業者のパンフレット等でも可とじていましたが、それでは膨大な量になるため、こちらの指定する様式とし、一律に比べやすいものにしました。それに関しては一定の効果は出ていると思います。山五の件については、事業者の保育についての経験がなかったということがあったため、それを防ぐため、次の仕様書から保育に対して「経験や知識のある者」から「経験のある者」に限定したり、実務経験が2年以上ある者等の文言を加えたりして、改良してきました。

また、専門的な分野に関して、これは会計のところになるんですけど、収支計画書や過去の決算書類等を提出いただいています。なかなか分かりにくいということで、これまでは、会計の専門委員より説明をしてもらってその方の総評で良いと言えば、他の委員も良いんだろうという評価をしておりました。しかし、これでは誘導に近いと取られるということもありましたので、会計の部分に関しては別立てにして会計の委員のみで選定基準を作成しました。

(保護者)

山五の件については、何があって業者が手を引いたのか分かりません。例えばもし事業者任せられなくなった場合は3年待たずの契約解除はあるのですか。また、他の9事業者はうまくいっているのか、そちらの親御さんと子どもさんは満足されているのか意見を聞きたいです。アンケートなどはしているのですか。

(吹田市)

山五では、学級崩壊という言葉で片づけると違うところもあるんですけど、なかなか保育といいますか、子どもが指導員の言うことを聞けない状況、指導員が子どもを束ねることがなかなかできない状況でした。法人の方には、ベテラン指導員を必ず廃止すると約束していたんですが、直前になって家庭の事情で入れないことがありました。6月には経験のある方の採用が決まったんですが、その方も結果的には家庭の事情があり退職することになりました。その結果、経験の浅さからベテランの中心になる指導員がいなくて責任をもって運営が難しいということで最終的には契約解除に至りました。3年を待たずに解除できるのかということは、仕様書の中で市が必要と判断した場合には解除できる、契約書の中にも解除条項を設けておきますので解除することはあるのかということであればあるということになります。ただ、それ自体、子どもにとっては指導員がコロコロ変わるとい

うことはよくないことですので、スタンスとしては、こちらから指導して改善して続けてもらうことが最も大事なことです。それでも結果、最悪なパターンが山五みたいなことになりま

す。
現在、9育成室を運営しているところも、全てが完璧にうまくいっているかとそうではなくて、トラブルが起こることもございます。ただ、それはこちらから指導しまして改善をしてもらっているところですので、我々が巡回しながら指導やアドバイスをしたりしながら市の方でしっかり見ていかないといけないと思っています。

委託している育成室の保護者に対しましてはアンケートを行っておりまして、傾向としましては、初年度は不安だという声が多いのですが、時がたつにつれて、結果が良くなっていくのが一般的な傾向です。

(保護者)

指導員確保の課題が大きいということであれば、指導員の雇用について皆を巻き込んで人材確保ができなかったのかなというのが率直な感想です。保護者としては、巻き込まれているのかなと思います。

選定委員で選定していくことになると思いますが、その時にどれぐらいの手が挙がるのか、1社しか来なかった場合はどうするのか。65点に上がったということですが、正直低いなと思います。それを半数以上でいいというのは基準が低いと思います。市の方針で直営から委託に変わるのであれば、もう少し基準をしっかりしてほしいと思います。

また、保育の質を下げないと言いますが、業者によってはテレビやDVDを見せたり。今まではそういったことをせずに子供同士で関わりあうことを先生が大事にしてきたから使ってきたんです。そこが変わるとニーズに合わない、保護者を裏切ることになるんじゃないかと思うんです。

(吹田市)

昨年度で言いますと、1事業者だけの選定委員会を開催するところがありました。本来ですとプロポーザルということで複数の事業者に応募いただいて競争するということが一番ですが、1社であっても従来どおりの採点、5段階で3を普通とし、直営の育成室の運営基準の評価を3という基準として、みていただきたいと委員にお願いしています。60点でも現状に近い運営できる事業者であり、さらに直営の育成室よりも少し良くなければ通らない基準だということは理解していただきたいです。

また、2点目のテレビを子どもに見させているという点につきましては、子どもが好きそうなDVDを流して一斉に大型画面で見せるということになりましたら、指導員は当然楽ですし、子供は静かに見てくれるでしょう。ただし、それを保育かといわれると我々も全くそうではないとまでは思っていないので、そのような運営は全く禁止という形ではありませんので、過去に委託事業者さんからそういったことはしても良いのかというご相談はありました。

それは、1日保育の熱い炎天下日中の外遊びもさせられない一時間に、体の静養のため

に使う形での提案だったので了承しことはありました。そういう独自の保育をするというところでは、我々もそこはチェックしたいので、巡回しています。そういったことは協議して事前に報告してもらってから進めてもらっています。

また、伝承遊びや集団生活を通じて学ばせるという考え方を継続して委託事業者にもやってもらいたいと思っていますので、そこはしっかりと直営の指導員から保育の引継ぎの中で継承したいと思っています。

(保護者)

私の子どもは支援学校に通っていますが、指導員の配置はどうなるんですか。

(吹田市)

一つのクラスに大人が必ず二人、一人は先ほどの仕様書でいうと実務経験2年以上の人になります。それに加えて、配慮が必要なお子様がいらっしゃる場合は、加配ということでプラスアルファの大人が配置されます。いただいています。

(保護者)

プラスの加配の方は行h差の方が選ばれるということですか。

(吹田市)

採用については事業者の採用になりますので、事業者で選ぶことになります。

(保護者)

支援学校のバス停が駅のところにあって、先生方に迎えに来てもらっているんですが、そういうサービスも今後も同じですか。また、小学校とはそもそも学校が違うんで代休の日も違います。そういう支援学校がお休みの時は8時30分から夕方までみてもらっているんですが、そういった状況も維持してもらえるんですか。

(吹田市)

変わらず同じようにさせていただきます。万が一お一人だけ8時30分からきていただくことになっても、必ず大人2人が来ることになります。バスのお迎えについてもそこは変わらずで、事業者の方がお迎えに行くことになります。

(保護者)

公募の選定は10月から12月の約3か月行われるということですが、どこでどれぐらいの頻度でやっているんですか。

(吹田市)

基本的には市役所の会議室で行います。さんくすに教育委員会が入っていますので、そちらの会議室を使ったこともあります。今年度の予定で言いますと、昨年度の既に委託しているところの評価を9月上旬に実施したり、評価の確定と仕様書と募集要領を定めることを10月中旬に予定しています。11月に公募を行いまして、提案書を審査するという一次審査を行うのが12月上旬になり、これが4回目になります。12月中旬に二次審査を行い、これが5回目になります。ただ事業者の応募者数によっては2回、3回に分けたりすることもあります。1年間のサイクルでいいますと、こういった形になります。

(保護者)

引継ぎの中で配慮を要する児童に1対1で保育を行う形で書いているのですが、事前に加配の先生は決まっているんですか。先生が大幅に変わる環境が変わるっていうのは子どもにとって、慣れるのに時間がかかると思うんです。

(吹田市)

指導員の確保につきましては、引継ぎ初日に全員揃えるということは確かに難しい状況は確かにございまして、主に指導員を先に決めていただいて担任を決めて、補助指導員が決まっていくのが流れになることが多いのですが、必要な引継ぎを受けられるタイミングで従事する指導員がつかないと意味がありませんので、我々も法人にプッシュしていくかたちになります。

(保護者)

そういうところを強めに言っていたきたいんです。加配につかれる方が本人の都合で辞められたりしては困るんです。一番怖いのが、本に自分から伝えることができないんですよね。テレビをずっと見っぱなしでもこういうことがあったよって、いえないのでこちらからは分からないんです。安心して任せられるっていうふうにならないと不安が大きいので、その辺をきっちりお願いしたいです。

(吹田市)

そこは我々を信頼していただくしかないんですけどもそこは事業者に要求していきたいと思います。

(保護者)

引継ぎの時に親が同席するのは問題ありませんか。親じゃないと分からないこともあると思うので伝えきれないということもありますので。

(吹田市)

引継ぎのタイミングがございまして、それはご相談になると思いますが、事業者には引継ぎ時に継続するすべての保護者に個人面談をお願いしておりまして、配慮を要するお子さんには、通常より長い時間をとっております。

(保護者)

過去の公募で落ちたところも今後応募することは可能なんですか。来年4クラスなんですよね。民間であろうと直営であろうと、クラスの具体的な場所と空調等の設備を充実していただいて民間にした方がより丁寧でいいんじゃないでしょうか。

(吹田市)

落ちた事業者の再チャレンジは可能でして、そこは反省点を踏まえた上で再チャレンジするという想定です。また、4教室目の確保については、校長先生と協議をしております。今、ここですよとは申し上げられませんが、確実にうちがに使わせていただくということでの協議ですので、ご安心ください。また、整備についても必要な予算をとって行いますのでご安心いただければと思います。

(保護者)

9月の予算にも計上されているんですね。

(吹田市)

はい。

(保護者)

指導員の確保というが、9育成室でどれだけ確保できているのか。それでも37人不足していますよね。今回20めいというのもどこからくるのかということと、指導員がコロコロ変わるのには子供によくないのであれば、民間委託すること自体おかしいんですけど。まだ12育成室移譲する可能性もあるということですので、その根拠というか、指導員の確保というのであれば、雇用形態を変えるという市の姿勢が全然見えないので、保護者とか子どもとかに押し付けてくる自体がおかしいんですけど、それは育成課としてどのように考えているのか教えてください。

(吹田市)

今日は資料を持ち合わせてりませんので、何人確保という部分は申し上げられないのですが、指導員の確保を我々ができていないところは市として課題とっております。指導員の雇用形態を変えてでも多く雇ってほしいというご要望だと思うんですが、育成課だけでは雇用形態を決めていくことはできないというところがありまして、市、組織全体での雇用形態ということになるのでそこを我々だけではできないところは申し訳ないと思っております。今年度3育成室を委託した場合20名確実に確保できるのかといいますと、それはできる法人さんに手を挙げていただくということになります。去年は3育成室の選定をさせていただいたんですが、選考の結果落選となり採用していないところがございまして、確実にできるところを選んでやっていただくということをお願いすることになると思います。

(保護者)

職員が巡回して点検と何度か言われていますが、具体的な内容が分からないんですが、実地指導や監査に近いような厳しめの内容なのか教えていただきたいのと、仕様書に市が主催する研修会についても積極的に活用するとあるんですが、実際に市が主催している研修会がどのくらいの頻度で行われているのかと参加率、特に民間の業者が毎回参加しているのかというのを教えてください。

(吹田市)

巡回の内容については、基準があいまいで何が厳しいのかというのがありますが、都度都度全ての様子を完全に見て帰ることはできないので、時間等を変えて様子を見たりしています。巡回以外で市の職員が行く場合がありますので、このポイントを見ていこうと決めながらやっています。保育の部分についてはスーパーバイザーが巡回して見ており、事務職員は、スーパーバイザーからアドバイスをもらってどういうところをポイントとしてみるかを聞いて現場に入ったりします。また、市が開催する研修については、規模にもよ

りますが、年間で7、8回ぐらいかと思います。市の指導員に対して、全てが対象とはなっておりませんが、基本的には各育成室ごとに1名以上の参加をお願いすることがおおく、それについてはほぼ参加していると思います。会場の関係で育成室全員が出ることはできませんので、全員の参加率というところではそこまで高くはないです。